

「戦後70年を迎えて、
日本軍『慰安婦』問題の解決を」
寺岡シホ子

今年には第二次世界大戦の終了から70年目になります。しかし大戦時に、日本軍から「慰安婦」として自由を奪われ大きな人権侵害を受けたアジア各国の女性たちの苦しみは、癒えることなく未だに続いています。

1991年、金学順(キム・ハスン)さんが「慰安婦」制度の被害者として勇気をもって名乗り出られてから24年になります。彼女たちの戦争はまだ終わっていません。

2006年度からの中学校歴史教科書から「慰安婦」問題についての記述が消えていましたが、今年度より一社(学び舎)のみに記述が復活しました。国として「慰安婦」問題の日本軍関与を認め、お詫びと反省の意を述べた、河野洋平官房長官の談話(1993年)いわゆる「河野談話」を載せると同時に、「強制連行を示す証拠資料はみつかっていない」などという真実から反れた内容の閣議決定(2007.3.16)文章の記述をも併せて載せるなど、満足な内容ではありませんが、大きな一歩前進であったと思います。また、水面下ではありましたが、日韓二国間会談などももたれ、何らかの進展が期待されていました。

そんな中、2014年8月、朝日新聞は「慰安婦」問題についてのこれまでの自社の報道を検証する特集を組み、一部記事を虚偽であったとして取り消しの発表をしました。

1982年から1997年の間に掲載した吉田清治氏の証言記事を裏付けが取れないという理由で虚偽と判断したのです。

この取り消し発表後の世間、特に国会での凄まじい朝日バッシングは、皆さん記憶に新しいことでしょう。

さらにこの吉田証言とは別に、「慰安婦」問題の記事を書いた植村隆、元朝日新聞記者までが、検証の結果、問題なしと発表されたにも関わらず、捏造記者のレッテルを貼られ、身の危険を感じる脅迫は家族にまで及び、職場まで攻撃対象となる異常な事態が続いています。また、国に対して「慰安婦」問題の解決を求める意見書を採択した県・市町村議会はこれまで42を数えていましたが、この朝日の誤報道発表以後、待っていましたがとばかりに右翼勢力の動きが強まり、39の自治体が以前の意見書を撤回する旨の新たな意見書を決議しました。

これほど大きな影響を及ぼした朝日の検証をどうみたらよいのだろうか。吉田氏の証言は裏付けが取れないというだけで、本当に全てが虚偽なのだろうか、私は大きな疑問を抱いておりましたが、折しも6月27日、「吉田証言は生きている」と題した講演を聞く機会がありました。講師は、1993年に吉田氏にインタビュー取材したフリージャーナリストの今田真人氏(元、赤旗記者)で、今回の吉田証言を虚偽と判断した朝日の検証に異を唱えるものでした。紙面の都合で詳しくお伝えできないのが残念ですが、朝日が吉田証言を虚偽とした八項目の理由の全てに納得の行く反論説明がなされました。詳しくは「週刊金曜日」6月26

日号、氏の著書「吉田証言は生きている」
をご参照ください。

今田氏は「命をかけて国の犯罪を証言し
被害女性たちに謝罪をしていた吉田氏を、
詐話師として葬り去ることは許せない。こ
れは吉田氏個人の問題ではない、権力によ
り真実がつぶされていくことが問題であ
る」と結んでおられます。

国家間の思惑でなく、真に被害者の尊厳
が回復される解決が一日も早くなされます
ように、そのために私たちが諦めずに声を
上げていきたいと願う者です。

(てらおか・しほこ / 日本キリスト教団
鶴川教会・日本キリスト教婦人矯風会)

**第75回北海教区総会【議案第26号】
日本軍「慰安婦」問題の解決を
目指して、歴史修正主義に抗し、
過去の歴史責任に向き合うための
運動を推進する件**

日本軍「慰安婦」問題の解決を目指して、歴
史修正主義に抗し、過去の歴史責任に向き合
うための運動を推進するために、以下の事項
に取り組む。

1. キリスト者としての基本的立場と意思を
表明する下記の宣言文を採択し、日本政府や
各メディアに送る。
2. 学習会やフィールドワークを開催し、学
びを深める。また負の歴史によって犠牲とな
った方たちを覚え追悼礼拝を捧げる。
3. すでに活動をしている市民運動と連帯す
る。

日本軍「慰安婦」問題の解決を目指して、歴
史修正主義に抗し、過去の歴史責任に向き合
うためのキリスト者宣言

私たちは神を信じます。神の正義、神の平
和を求めます。神とは人の思いを超えて働く
方であり、神の正義とは人や時代、状況が移
り変わっても、変わったり揺らぐことのない
正義です。

しかし、聖書は語ります。「人は罪を抱え
ている」、と。それゆえ、人の力では神の正
義を実現することはできません。けれども同
時に、「人は神の似姿である」とも聖書は語
ります。そうであるがゆえに、私たちは神へ
の信仰を持って生きる者として、神の正義、
神の平和を求めます。

神の平和とは、単に、物理的な武力衝突や
戦争が無いだけではなく、人が他者と共に平
安のうちに生きていくことのできるもので
す。そして、神の平和とは神の正義を目指
すことによってしかもたらされないと信じて
います。

旧日本軍の強制連行による「慰安婦」の史
実は、長年アジアの国々や国内外の民間団体
によって被害者・加害者の証言による実態の
確認作業、裁判支援、賠償制度などの積み重
ねにより明らかにされてきています。過去に
起こったことを無かったとすることはでき
ないのです。

過去に起こったことを無かったとするこ
とは、今なお「慰安婦」と呼ばれ性奴隷にさ
れてきた方々の尊厳を傷つけるものです。ま
た、過去の歴史責任にきちんと向き合わない